

下野市立国分寺西小学校

1 学校課題

基礎・基本をもとに、学び合う子どもの育成
～楽しい・分かる授業の創造を目指して～

2 研究計画

(1) 研究仮説

算数科授業で身に付けた基礎・基本をもとに、見通しをもち筋道を立てて主体的に考え、表現し、学び合う力を、他の教科学習や様々な教育活動に取り入れて工夫し実践すれば、研究主題に迫れるだろう。

(2) 研究の具体的内容

- ① 算数科における学び合いのある学習の実践
 - 基礎・基本の指導の工夫
 - ・授業の「目標」(めあて・ねらい)の児童との共有
 - ・効果的な「振り返る活動」の工夫と実践
 - 学び合いのある学習活動の工夫
 - ・指導計画の工夫改善
 - ・「思考のすべ」を取り入れた授業づくり
 - ・「学び合い」における発達段階ごとのめざす児童像の設定
 - ・話し合いや発表の場等において考えを表現する指導の工夫
 - ・評価の工夫
- ② 他の教科や教育活動での活用
- ③ 少人数ならではの個に応じた指導の工夫

3 研究内容

(1) 授業研究の概略

時期	教科	授業者 (学年)	備考
4月			今年度の研究計画共通理解 ・研究内容の説明 ・授業者決定
5月24日(水)	道徳	(3・4年)	中山先生の師範授業・講話
7月11日(火)	市人権教育研修会	小嶋 徹 (6年)	指導案検討会(全体会) 授業研究会 下都賀教育事務所学校支援課 清水友晶先生
11月15日(水)	算数 (S&U)	上野 友美 (1年)	指導案検討会(全体会) 校内研修会(授業研究会) 宇大 日野圭子先生
12月6日(水)	算数 (S&U)	早乙女 由佳 (3年)	指導案検討会(全体会) 校内研修会(授業研究会) 宇大 日野圭子先生
1月19日(金)			今年度の学校課題の成果と課題 研究のまとめの作成 来年度の研究計画の作成

(2) 研究の実際

①第1回研究会

1年 算数 単元名「くらべかた」

任意単位による広さの比べ方を考えさせるため、重ねるだけでは比較できない2枚のレジャーシートの広さの比べ方を考えるという課題を設定した。持久走記録会で使うレジャーシートを活用することで、実生活との関連をもたせた。自分の考えた比べ方を友達と協力して試し、操作することで自分の考え方を表現させた。振り返りは、記述式で行った。



②第2回研究会

3年 算数 単元名「三角形」

三角形について、辺の相等関係に着目させるために、仲間分けの活動を行った。学ぶ意欲を高めるため、三角形は、自分たちでストローとモールを使って作り、それを操作しながら仲間分けの活動を行った。個人で考え、グループで考え、他のグループの分け方について考える、という過程を経てねらいに迫った。また、教師の指定した三角形を実際に作ることで振り返りとした。



4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 課題場面の設定や教材の工夫を行ったことにより、主体的に学習を進めることができた。
- ② 具体物の操作を通して学習への意欲が高まった。
- ③ 言語化することにこだわらず、操作を通して自分の考えを表現させることをねらいとした。具体物の操作活動は、有効であった。
- ④ 言葉のやり取りにこだわらない学び合いのある授業を展開したため、全員参加の授業ができた。
- ⑤ 系統性を意識し、既習事項を活用した授業の流れができた。
- ⑥ 学習内容や学級の実態、発達段階に応じた振り返りの工夫ができた。
- ⑦ 中学校区の学習指導主任で考えた「学び合い高め合う子ども」の育成を目指した子どもの姿や教師の支援の例をもとに、関係する事項を指導案に「小中一貫教育との関連」として表し、意識付けすることができた。
- ⑧ 少人数学級の特性を活かし、子どもの姿に焦点を当てた授業観察を実践した。子どもの姿に基づいて研究協議をすることにより、教師の有効な発問や手立て、子どもの活動から見てきたことなどについて話し合うことができた。また、他校から参加してくださった先生方からも、多様なご意見をいただくことができ、充実した研修の場となった。



(2) 課題

- ① 授業の中では、「学び合う姿」というイメージをもって指導したが、「学び合い」における発達段階に応じためざす児童像が具体化されていない。
- ② 基礎・基本の習得状況の個人差が大きい。本校は少人数学級なので、個に応じた指導、個に合わせた学び合いの姿について更に研究していきたい。